

りよく のう じゅう
緑農住 まちづくりハンドブック

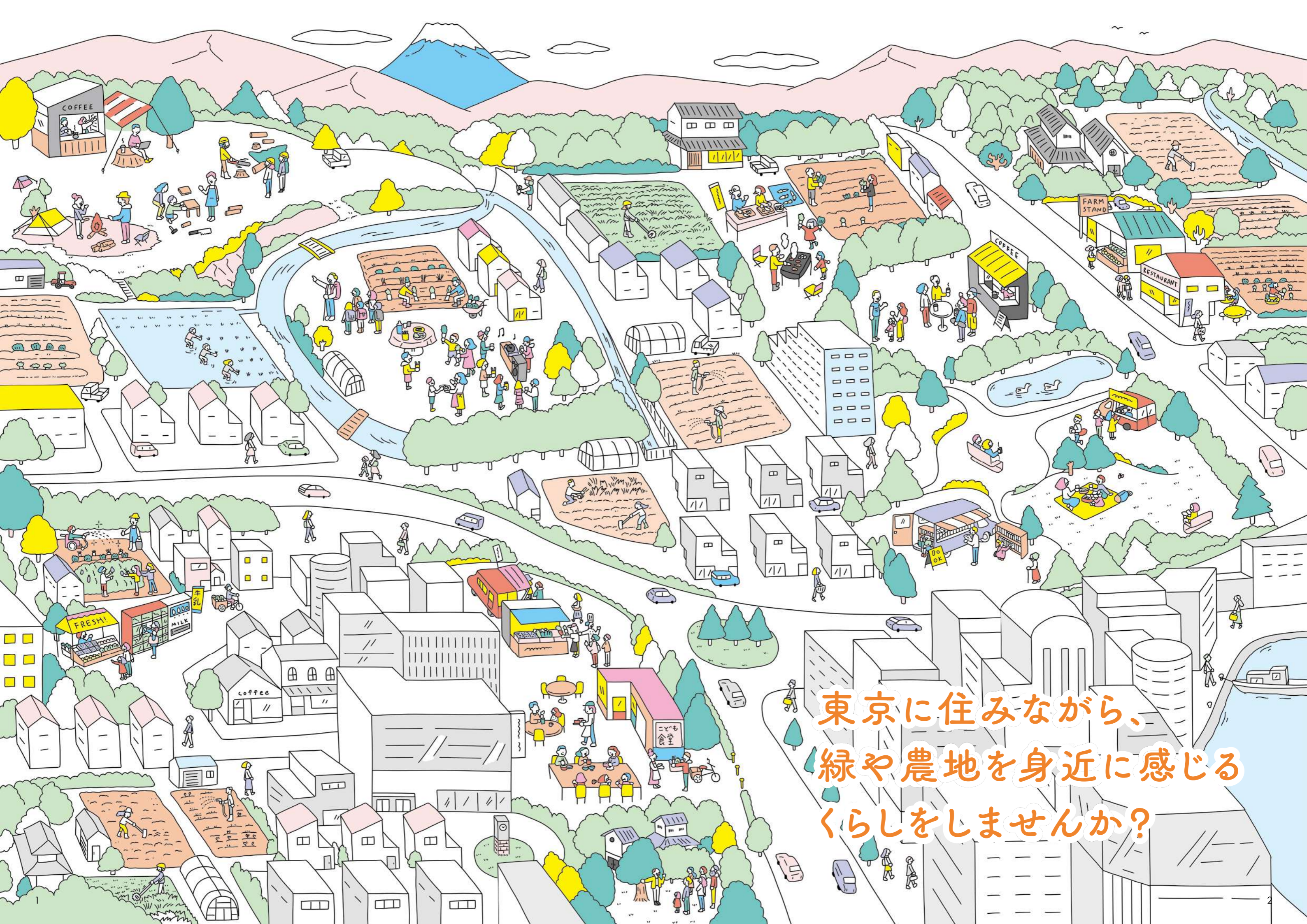
東京だからできる「緑と農がある暮らし」

New
Neighborhood
Tokyo
— Life and Work —



東京の
新しいくらしをしよう





東京に住みながら、
緑や農地を身近に感じる
くらしをしませんか？

変わりゆく社会と新しい暮らし

今、社会は変化しようとしています。

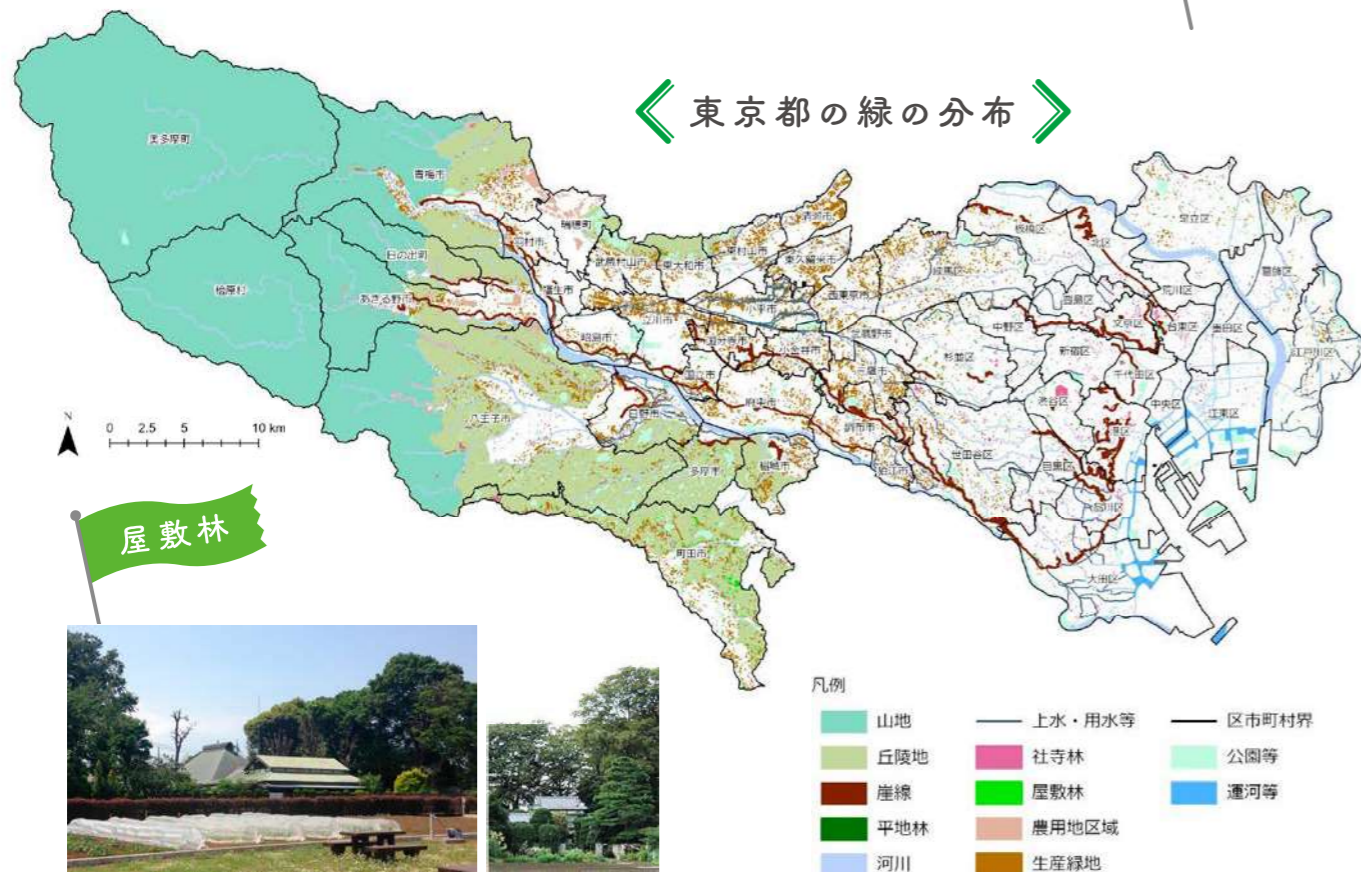
深刻さが増す自然災害や環境問題に加え、新型コロナ危機の影響等もあり、人々の暮らしや社会の在り方が大きく変わろうとしています。人々の価値観や暮らし方が多様化する中で、ライフスタイルに新しい考え方や行動を取り入れ、自身のより楽しく豊かな暮らしとともに、より良い持続可能な地域社会につながるまちづくりが今、求められています。

実は、東京には様々な緑があります

東京には農地や人々の生活に寄り添い受け継がれてきた里山、屋敷林等の様々な緑が身近にあります。



出典:東京都環境局「里山へGO」
https://www.tokyo-satoyama.metro.tokyo.lg.jp/satoyama/



左 写真提供:練馬区環境まちづくり公社 みどりのまちづくりセンター
右 出典:東京都産業労働局「農業・農地を活かしたまちづくりガイドライン」

緑の系統図「緑確保の総合的な方針」から

緑はまちにとって、とても大切なもの

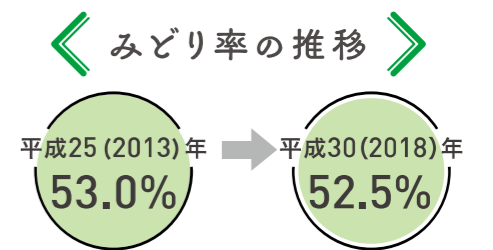
緑は、遊ぶ場所・憩いの場所としての役割はもちろんのこと、緑があることで多様な生物が生息したり、その景色から四季を感じることができます。また、都会の中の涼める空間、雨水を貯める場所、災害時の避難場所等、まちに多様な機能をもたらします。さらに、農地は新鮮な食料の生産の場や、食育の場にもなっています。

みなさんが過ごす空間として、そして、環境や暮らしを守る存在としてとても大切なものです。

大切な緑は少しずつ減っています

東京都のみどり率【注1】は少しずつ減少しており、特に樹林や農地の減少が大きな要因となっています。

【注1】みどり率:緑が地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が、地域全体に占める割合



緑を未来につなげよう

みなさんで、緑をいかした新しい東京の暮らしをつくるために、緑農住まちづくりを始めませんか?

「緑農住」まちづくりって何?

【緑】里山や屋敷林等・【農】農地・【住】住環境を融合させる新しい東京のまちづくり



緑と農がある暮らしや働き方をすることで、みなさんの暮らしの可能性をひろげることができます。

【注2】SDGs:持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標

これが **緑農住** のまち! 暮らしが楽しい、仕事・働き方が

おもしろい

都市に住みながら、身近な緑や農地に触れることができるまちです。



まちの歴史や
風格を感じる
屋敷林・社寺林
がある

会社帰りや週末に
農業が楽しめる

歩いて遊びに行ける
公園や農地がある

公園や農地が
テレワークの場所や
休憩場所になる



生き物が暮らす
草地や樹林地・
水辺がある

里山でキャンプや
自然体験ができる

ビジネスを展開する場所として
身近な緑や農地を活用できる

新鮮な地場産野菜が
いつでも食べられる

地元で緑の保全や
農業のボランティア活動に
参加し地域交流

緑農住まちづくりを進めることで、くらしや働き方がより豊かになるだけでなく、身近な緑や農地に多くの価値や機能を見出し活用することにより、より良い社会や環境づくりにつながります。